

益田市地域公共交通計画(案)

地域公共交通を取り巻く状況と課題の整理

(協議内容)

- ・ 計画の概要
- ・ 益田市の公共交通の現状と課題
 - ① 人口減少と高齢化
 - ② 公共交通の利便性と利用環境
 - ③ まちづくりとの連携
 - ④ 地域交通の担い手不足
 - ⑤ 公共交通利用者の減少と行政の財政負担
 - ⑥ 公共交通に関する市民意識の醸成

(今後の協議予定)

第3回益田市地域公共交通活性化協議会以降

- ・ 基本理念・基本目標
- ・ 計画の達成状況の評価指標

計画の概要

1. 背景と目的

本市の公共交通は主に民間路線バス、鉄道や生活バス、過疎バス、乗合タクシー等で構成されています。市内を運行する公共交通体系や人口分布、施設分布など社会環境や交通を取り巻く環境が変化し、移動手段の確保は喫緊の課題となっています。本計画は、平成 28 年に策定した「益田市地域公共交通基本計画」の次期計画として、地域の多様な輸送資源を視野に入れ持続可能な交通体系の構築を図ることを目指し、政策の方針や実現に向けた方策を図ることを目的とします。

2. 計画期間

計画の対象期間は、令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 年間とします。

3. 計画区域

益田市全域を対象とします。

4. 計画の位置付け

本計画は「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に規定する法定計画として、「第 6 次益田市総合振興計画」を上位計画とし、「益田市都市計画マスタープラン」「益田市地域福祉計画」等の計画や現在策定が進められている「益田市立地適正化計画」との整合を図りながら策定します。

○第 6 次益田市総合振興計画

計画期間	令和 3 年度～令和 12 年度
将来像	ひとが育つ 輝くまち 益田
公共交通に関する施策	基本目標Ⅵ 人と人がつながり、支え合うまち 基本施策 2 持続可能な公共交通体系の整備 [取組方針] 既存の公共交通機関を中心とした持続可能な地域間の交通ネットワークの構築を目指しながら、地域の実情に合わせた交通手段の見直しを行い、市民、利用者、事業者、行政が一体となって移動手段の確保に努めます。また、地域活性化につながる航路路線の利用拡大を図り、路線の維持・拡大に努めます。 [施策] ①交通事業者や関係機関と連携した公共交通の利用促進 ②持続可能な公共交通体系の維持と確保を目指した地域との協働・連携 ③萩・石見空港路線の維持・拡大と利用促進

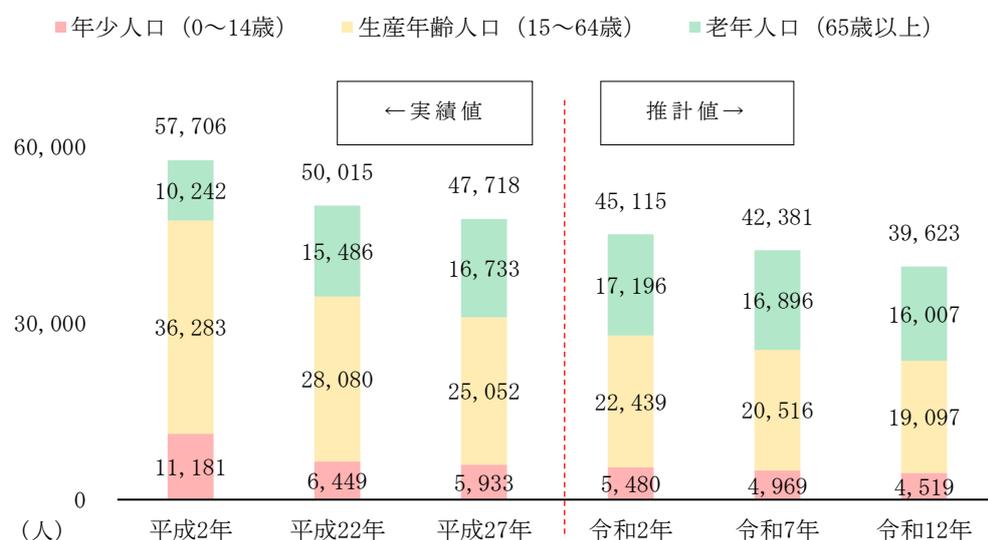
益田市の公共交通の現状と課題①

人口減少と高齢化

現 状

本市では、年々人口が減少しており、今後も平成27年の47,718人から、令和7年に42,381人まで減少する見込であり、生産年齢人口、年少人口も減少が進むと予想される。高齢化率も年々増加し、65歳以上の高齢化率は、令和2年で38.0%となり、平成26年から6.2ポイント増加している。

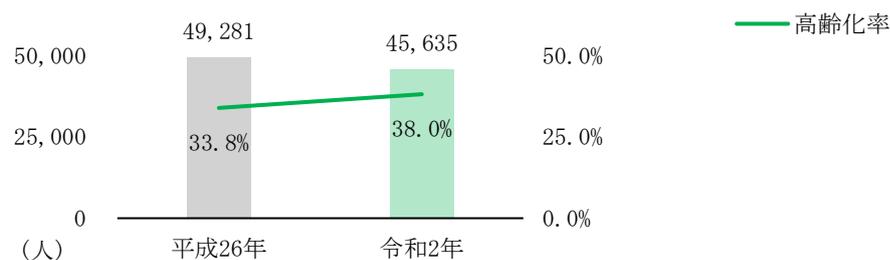
○益田市の人口年齢3区分別人口の推移



資料：益田市「第6次益田市総合振興計画」

※平成2年から平成27年までの実績値は国勢調査による。令和2年から令和12年までの推計値は、国立社会保障・人口問題研究所の推計による。

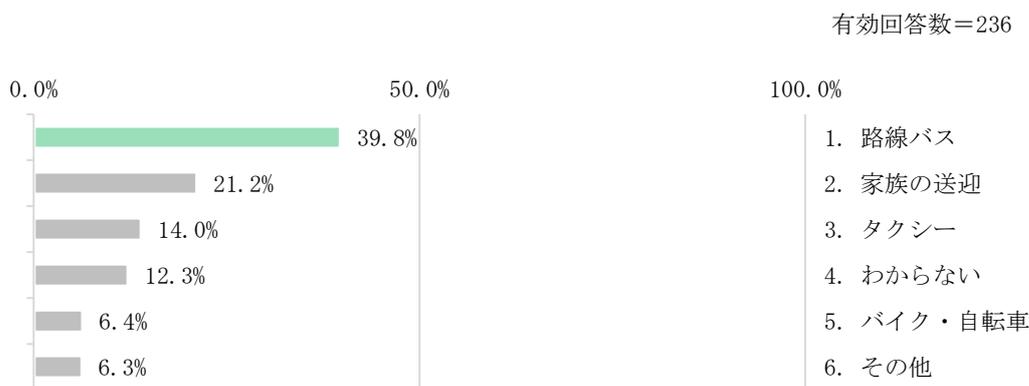
○益田市の人口と高齢化率



資料：益田市「益田市住民基本台帳(令和2年12月末)」

市民アンケート調査によると、自動車免許証の返納後に主に利用すると思われる交通手段が、「路線バス」が39.8%「タクシー」が14.0%と回答している。また、運転免許証を返納する方は増加傾向にある。

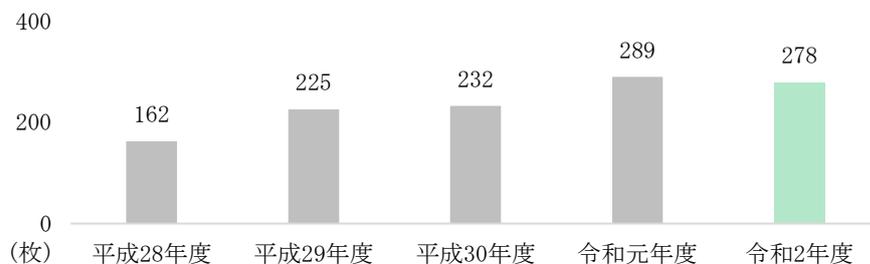
○自動車免許証の返納後に主に利用すると思われる交通手段



資料：益田市「市民アンケート(2021年2月実施)」

○運転経歴証明書交付数

※自主的に返納された方や運転免許証の有効期限が切れて5年以内の方の申請により交付されます。



資料：益田警察署

課 題

人口減少・高齢化社会への対応

人口減少による公共交通利用者の減少と、高齢化が進み、自家用車での移動が困難となった高齢者の外出環境が厳しくなることが懸念される。

自家用車を自由に利用できない人が今後も安心して暮らしていただけるために、効果的・効率的な公共交通サービスの提供と福祉事業との連携が求められる。

益田市の公共交通の現状と課題②

公共交通の利便性と利用環境

現 状

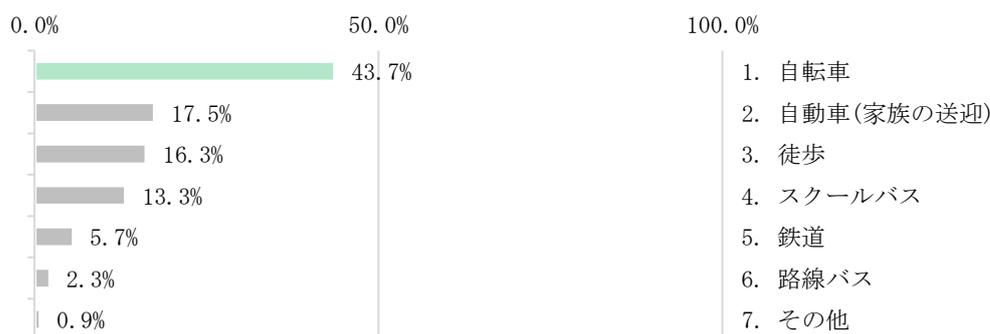
路線バスは、益田駅を中心に放射状に形成されており、幹線道路ほどバスの運行本数は充実している。一方で、路線バスの運行がない地域もあり、中山間部ではタクシー事業者の営業所が存在していないところがある。

中心市街地に多くの病院や学校が集まり、地区によっては医療機関や商業施設等が存在せず、地域間で差が見られる状況がある。

市内の高校に通う学生を対象としたアンケート調査では、通学手段として、路線バスや鉄道は選ばれにくく、自家用車による送迎や自転車で通学する学生が多い。

○市内の高校に通う学生の移動手段(登校時：晴れた日)

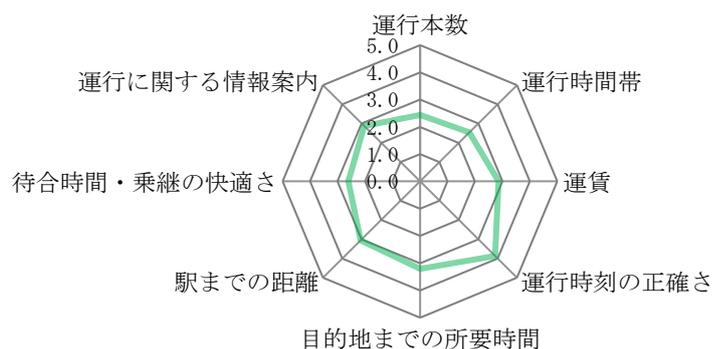
有効回答数=435



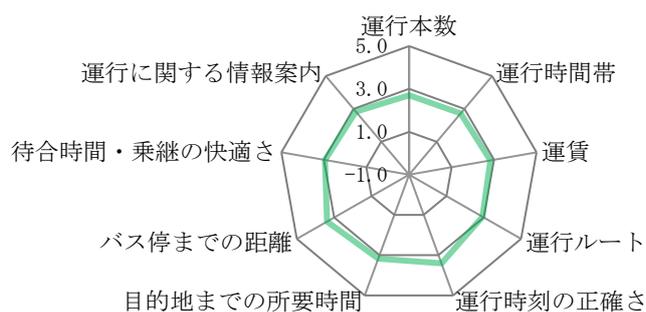
資料：益田市「高校生アンケート調査(2021年7月実施)」

市民アンケート調査によると、現在の公共交通のサービス内容に対する満足度については、平均以下の項目が多い。

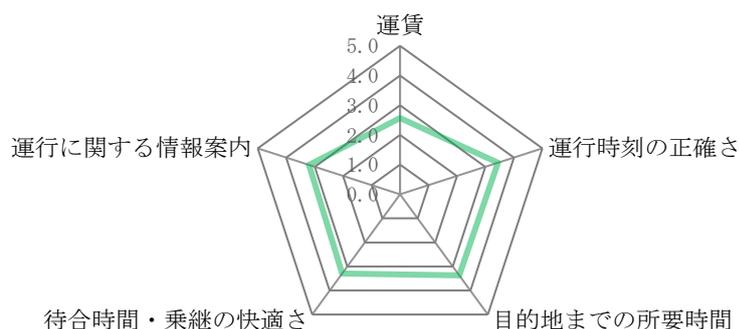
○鉄道



○路線バス



○乗用タクシー



満足＝5点、やや満足＝4点、普通＝3点、やや不満＝2点、不満＝1点として、各回答を重みづけし、回答数で除した値であり、平均点が3点を上回れば満足寄りに回答していることが判断できる指標です。

資料：益田市「市民アンケート(2021年2月実施)」

○キャッシュレス決済の導入

市内のタクシー事業者の中には、既に、キャッシュレス決済を導入しているところがある。また、バス事業者は、新型コロナウイルス感染症拡大などの社会状況も踏まえ、安全安心なサービスの提供、乗降時の利便性、乗客の乗降調査などを目的とした、ICカード導入を検討している。

課 題

社会状況や市民の特性に対応した移動手段の確保

地域拠点・交通結節点へのアクセスの利便性を高め、交通サービスの地域格差を改善していく必要があり、公共交通を利用しにくい地域への対応として、鉄道や路線バス、乗合タクシー等のほかに、スクールバス、移送サービスといった様々な交通手段との相互間の連携を検討する必要がある。

また、効率的・効果的な公共交通の見直しを行うには、乗り継ぎの利便性に加え、利用者に対する、利便性や安全・安心なサービスの提供も求められる。

益田市公共交通マップ

令和3年4月1日現在

※表示する路線等は、おおよその位置を示したものです。
 ※バス路線を表示するために、実際の位置とは異なる施設等があります。
 ※路線バスは時間帯により、経由しないバス停があります。



詳細は裏面へ



運転経歴証明書をお持ちの方への運賃割引制度

石見交通(株) : ☎0856-24-0076
 ・内容: 石見交通ローカル路線全線運賃半額(大原線、広島線等を除く)
 ・対象: バス降車時に運転経歴証明書を提示された65歳以上の方
 第一交通(株) : ☎0856-22-1400
 ・内容: タクシー料金1割引
 ・対象: タクシー降車時に運転経歴証明書を提示された65歳以上の方
 日本交通(株) : ☎0856-22-1370
 ・内容: タクシー料金1割引
 ・対象: タクシー降車時に運転経歴証明書を提示された方(年齢不問)
 益田タクシー(株) : ☎0856-22-8181
 ・内容: タクシー回数券1冊5000円(500円券11枚綴り)
 ・対象: 運転経歴証明書をお持ちの方(年齢不問)
 運転経歴証明書は、益田警察署 ☎0856-22-0110または、
 豊根県西部運転免許センター ☎0855-23-7900で発行手続きを行っています。

(お問い合わせ先)

- 路線バス**
 ◇石見交通株式会社益田営業所: ☎0856-24-0080
 ※各路線の運行時刻は、石見交通株式会社のホームページをご覧ください。
- 生活バス**
 ◇石見交通株式会社益田営業所: ☎0856-24-0080 ◇益田市役所連携
 ※各路線の運行日及び運行時刻は、益田市のホームページ「連携のまちづ」をご覧ください。
- 乗合タクシー**
 ◇益田タクシー: ☎0856-22-8181 ◇日本交通: ☎0856-22-1371
 ◇益田市役所連携のまちづり推進課: ☎0856-31-0600 ◇益田市役所
 ※各路線の運行事業者、運行日及び運行時刻は、益田市のホームページ「(前日17時までに予約が必要な路線もございます。)」をご覧ください。
- やまびこバス(過疎バス)**
 ◇有限会社中田自動車整備センター: ☎0856-56-1818(やまびこバス予)
 ◇益田市役所見見地域振興課: ☎0856-56-0301
 ※各路線の運行時刻は、益田市のホームページ「見見総合支所」をご覧ください。

【発行元】 益田市地域公共交通活性化協議会事務局 (益田市連携の)



路線バス

- 1 二条線 医光寺～益田駅(～医師会病院～日赤病院)～小島
- 2 小浜江崎線 医光寺～益田駅～日赤病院～須佐駅前
- 3 蠅竜湖線 医光寺～益田駅(～医師会病院～日赤病院)～持石海岸
- 4 石見空港線 益田駅～萩石見空港
- 5 津和野線 医光寺～益田駅～津和野温泉
- 6 匹見線 医光寺～益田駅～匹見温泉～匹見上
- 7 横田線 医光寺～益田駅(～医師会病院～日赤病院)～三星
- 8 梅月線 医光寺～益田駅～西益田小学校
- 9 大塚線 医光寺～益田駅～日赤病院～大塚
- 10 久城線 医光寺～益田駅～日赤病院～浜浜団地
- 11 都茂線 石見交通本社～益田駅～日赤病院～医光寺～美都温泉～三川～板井川
- 12 種線 益田駅～医師会病院～種上
- 13 土田線 益田駅～日赤病院～医師会病院～土田～宮ヶ迫
- 14 浜田益田線 石見交通本社～益田駅～日赤病院～医師会病院～浜田駅
- 15 新広益線 益田駅～戸内内～広島バスセンター～広島新幹線口
- 16 清流ライン高津川号 石見交通本社～益田駅～六日市～広島バスセンター～広島新幹線口
- 17 大塚線 津和野駅前～益田駅～大塚梅田

生活バス

- SB1 羽原・中垣内線 羽原～中西小学校前
- SB2 三糸・後溢線 真田中舎～養護学校前・火打寺～三糸公民館～怡原診療所前
- SB3 山折・乙子線 山折上～小原～石見交通本社前
- SB4 金山・宇治・津田線 金山～鎌手駅前～久城団地前

乗合タクシー

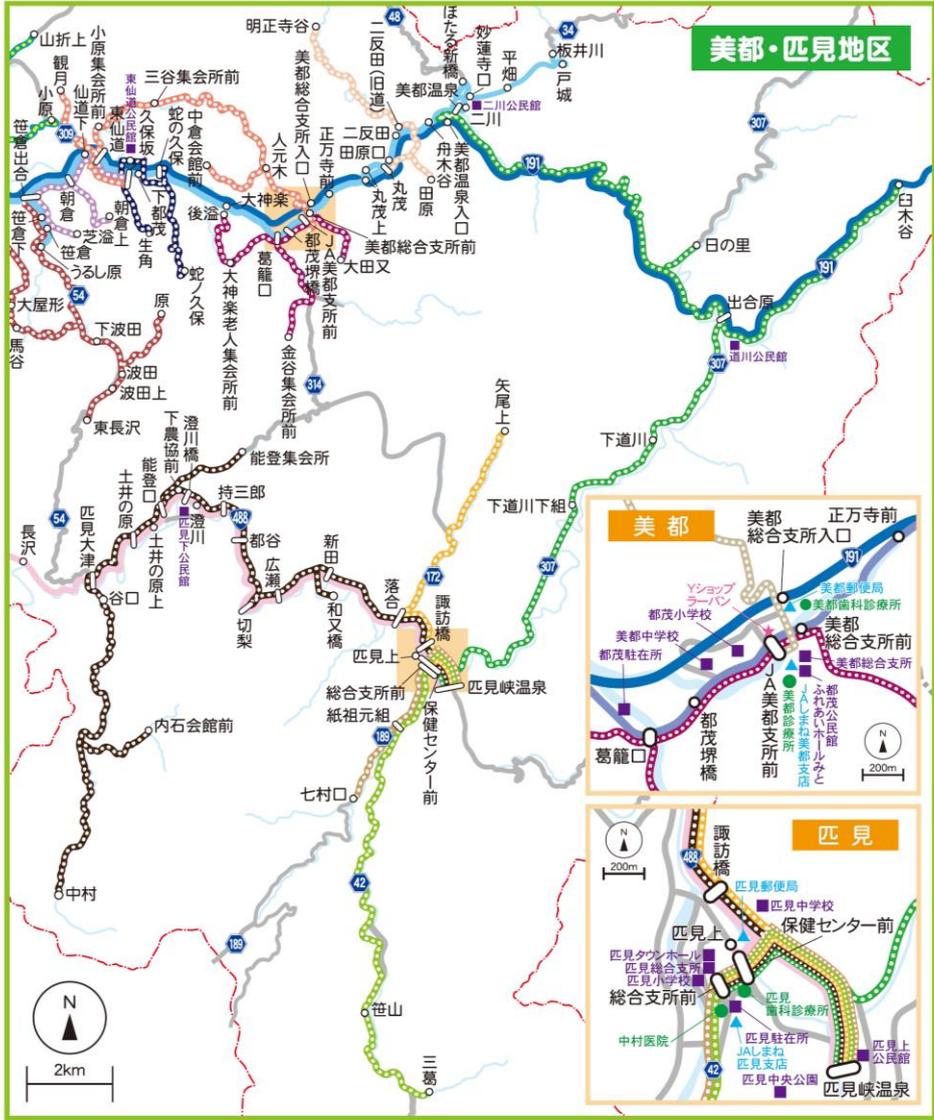
- NT1 松原・河成・虫追線 松原～高津～金島医院前
- NT2 梅月・左ヶ山・多田線 奥梅月～石見交通本社前
- NT3 板山・岩倉線 岩倉～伏谷～石見交通本社前
- NT4 喜阿弥・南田線 喜阿弥中～ゆめタウン前
- NT5 滑線 滑～小浜駅口～戸田小浜駅前
- NT6 千振・種線 岩崎～千振～種公民館前
- NT7 有田・河内線 渡出橋～河内～有田上～美濃地
- NT8 山折・津田線 山折～大草下～井の迫
- NT9 桂ヶ平・黒周線 桂ヶ平～二条公民館前～中西小学校前
- NT10 三谷・久原線 久保保～三谷集会所～JA美都支所前
- NT11 笹倉・朝倉線 芝溢～朝倉上～久保保
- NT12 生角・蛇ノ久保線 蛇ノ久保～生角～久保保
- NT13 丸茂線 明正寺谷～田原～丸茂
- NT14 大神楽・葛籠線 後谷～金谷集会所前～太田～JA美都支所前
- NT15 真砂線 東長沢～波田～久々茂中

やまびこバス(過疎バス)

- KB1 道川線 美都温泉～日本谷～総合支所前～匹見峡温泉
- KB2 三葛線 三葛～総合支所前～匹見峡温泉
- KB3 小原線 七村口～総合支所前～匹見峡温泉
- KB4 石谷線 中村～匹見大津～総合支所前～匹見峡温泉
- KB5 矢尾線 矢尾上～総合支所前～匹見峡温泉

※路線バス・生活バス・過疎バス・乗合タクシーの路線番号・配色は、分かりやすく表示するためのもので、実際のバス等に表示されている番号とは異なります。

ださい。
 [所連携のまちづくり推進課] ☎0856-31-0600
 まちづくり推進課 交通対策係)をご覧ください。
 ☎1370 ◇第一交通課 ☎0856-22-1400
 市役所美都地域振興課 ☎0856-52-2312
 [一]連携のまちづくり推進課 交通対策係)をご覧ください。
 ☎予約専用番号)
 確認ください。(前日17時までに予約が必要になります。)
 連携のまちづくり推進課) ☎0856-31-0600



益田市の公共交通の現状と課題③

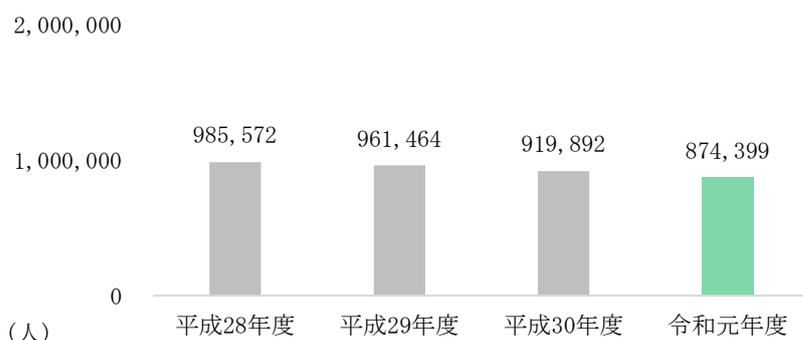
まちづくりとの連携

現 状

今から 400～800 年前の中世時代に輝きを放った益田市は、その歴史を語る多くの文化財が良好な状態で残る全国でも希有な地域として、令和 2 年 6 月に日本遺産に認定され、地域振興や観光振興の活性化が期待されている。

また、令和 2 年 6 月に「益田市自転車活用推進計画」を策定し、自転車を活用した地域振興への取り組みが進展をみせつつあり、まちづくりの計画である「益田市立地適正化計画」は、現在策定を進めている。

○主要観光地観光入込客延べ数の推移

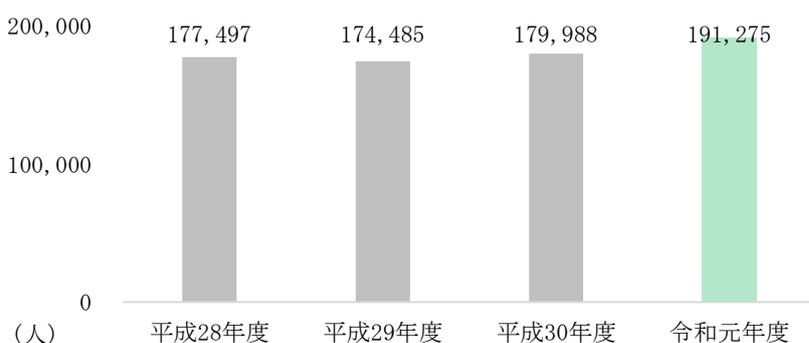


※他市の入込客数との比較

市	松江市	出雲市	浜田市	益田市
令和元年度	10,459,384	12,488,935	1,499,065	874,399

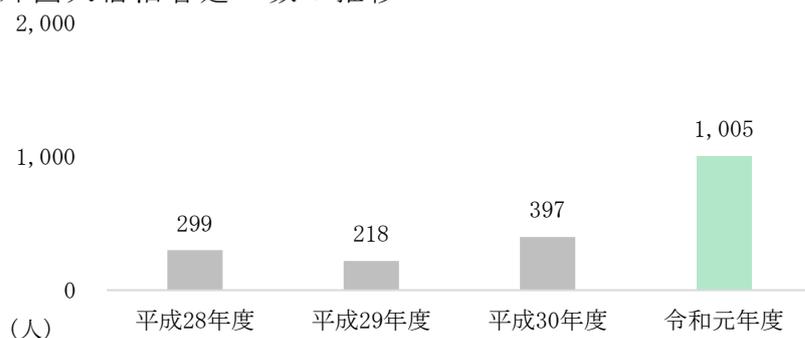
資料：島根県、益田市

○宿泊客延べ数の推移



資料：益田市

○外国人宿泊客延べ数の推移



資料：益田市

○まちづくりに関係する計画

- ・益田市自転車活用推進計画：令和2年6月策定
- ・益田市立地適正化計画(仮名)：令和4年度策定予定

課 題

まちづくりと連動した公共交通体系の対応

まちづくりと公共交通体系は、連動し調和の保たれた展開が求められており、「第6次益田市総合振興計画」や策定を進めている「立地適正化計画」等との整合性が求められる。

まちづくりとの調和については、今後のまちづくりの動向に合わせて、市民が医療・福祉施設や商業施設などへ快適にアクセスできる公共交通網を展開する必要がある。

また、観光などによるまちづくりによって、交流・関係人口の拡大や地域振興・観光振興の活性化を目指す中で、来訪者のアクセス拠点となる空港や駅から観光施設などへの乗り継ぎの利便性、外国人観光客を誘致するうえで、それらに対応するための多言語化した案内表示など、取り組む必要がある。

領主・益田氏の実力



紙本著色 益田兼堯像

益田川をさかのぼり、平野部から山間部へと入る手前に、歴史ある町並みが残っています。この町並みを築いたのは、中世の益田を治めた領主益田氏です。益田氏は優れた政治手腕を発揮して、益田の平和を維持しました。たとえば、戦国大名毛利氏と関係が悪化した後、和睦する際には、朝鮮半島の虎皮をはじめとする莫大な贈り物をし、蝦夷地(北海道)の昆布や数の子、地元の特産品である清流・高津川の鮎やうのかなどを材料にした豪華な料理を振る舞いました。自身の日本海交易への積極性と経済力を印象づける狙いがあったと考えられています。実際、以後、毛利氏から一目置かれており、非常に鮮やかな手法と言えます。その威勢は、山城・館の遺跡や城下に見ることができます。

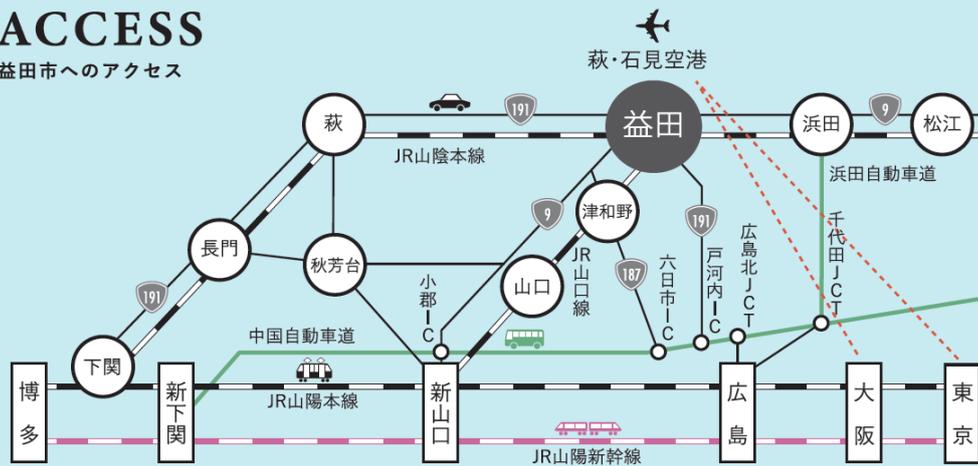
構成文化財MAP



華南三彩壺 (萬福寺)

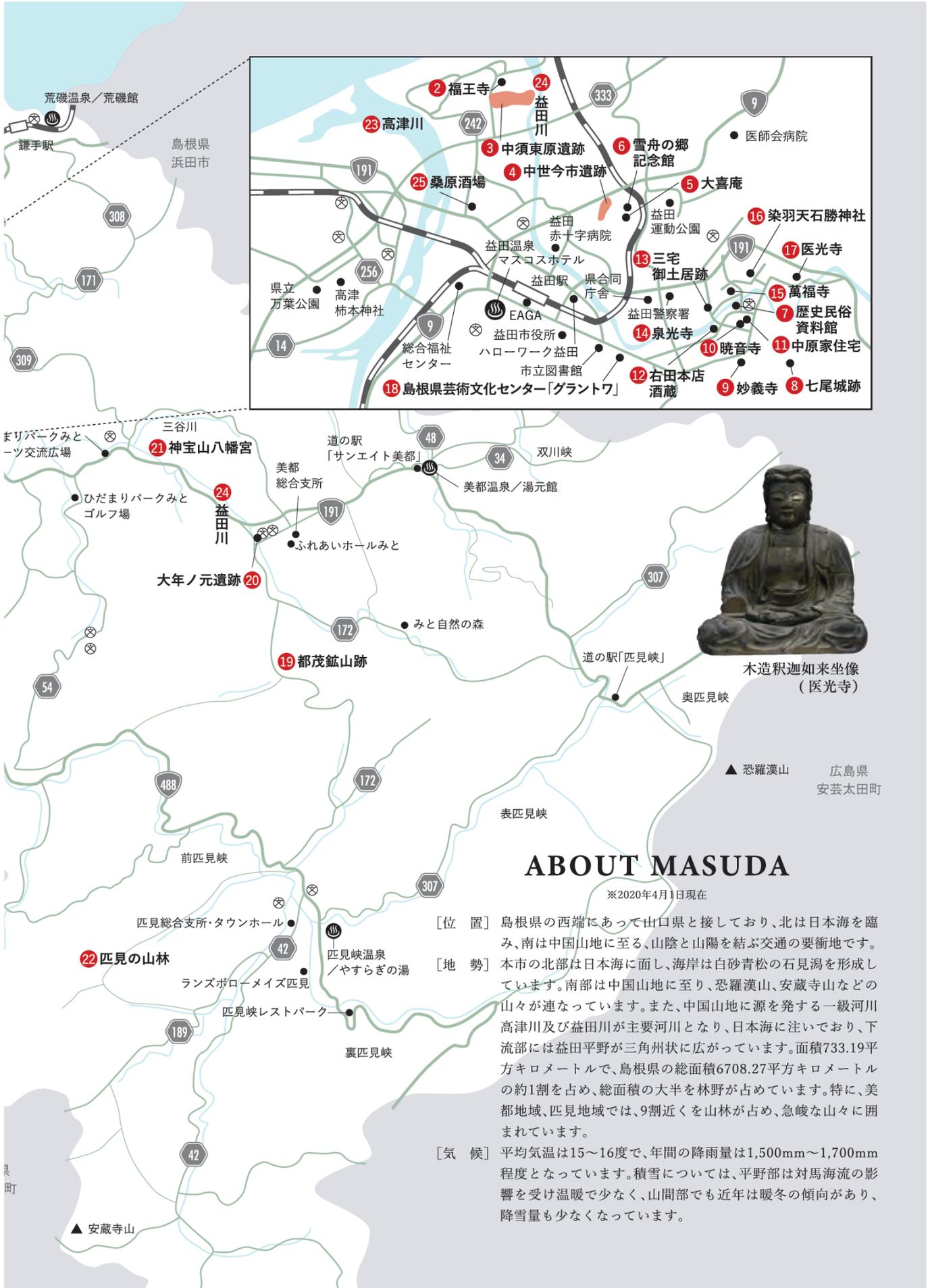
ACCESS

益田市へのアクセス



- 飛行機**
萩・石見空港
(益田駅までバスで10分)
 - 東京(羽田)から 1時間30分
 - 大阪(伊丹)から 1時間 ※季節運航
- 自動車**
 - 東京から 11時間
 - 大阪から 5時間30分
 - 広島から 2時間

- 新幹線・列車**
新山口駅まで新幹線→山口線の特急
 - [東京]から 8時間
 - [新大阪]から 5時間
 - [広島]から 2時間30分
- 高速バス**
 - [大阪]から 7時間
 - [広島]から 2時間45分
- 夜行バス**
 - [大阪]から 8時間



木造釈迦如来坐像 (医光寺)

ABOUT MASUDA

※2020年4月1日現在

- [位置] 島根県の西端にあつて山口県と接しており、北は日本海を臨み、南は中国山地に至る、山陰と山陽を結ぶ交通の要衝地です。
- [地勢] 本市の北部は日本海に面し、海岸は白砂青松の石見潟を形成しています。南部は中国山地に至り、恐羅漢山、安蔵寺山などの山々が連なっています。また、中国山地に源を発する一級河川高津川及び益田川が主要河川となり、日本海に注いでおり、下流部には益田平野が三角州状に広がっています。面積733.19平方キロメートルで、島根県の総面積6708.27平方キロメートルの約1割を占め、総面積の大半を林野が占めています。特に、美都地域、匹見地域では、9割近くを山林が占め、急峻な山々に囲まれています。
- [気候] 平均気温は15～16度で、年間の降雨量は1,500mm～1,700mm程度となっています。積雪については、平野部は対馬海流の影響を受け温暖で少なく、山間部でも近年は暖冬の傾向があり、降雪量も少なくなっています。

益田市の公共交通の現状と課題④

地域交通の担い手不足

現 状

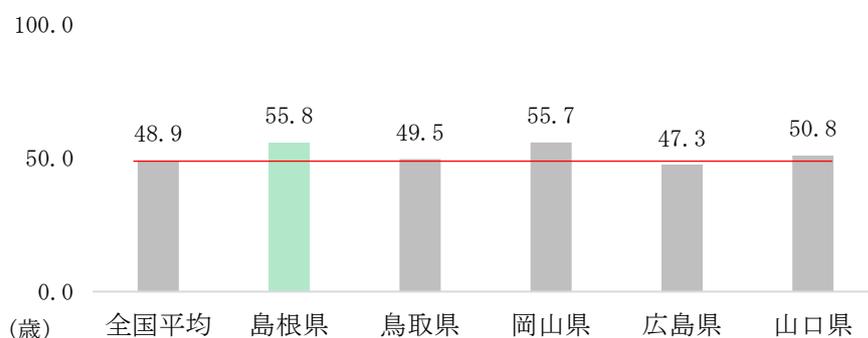
中国地方の各県で運転士の高齢化や運転士不足の状況となっている。益田市内の交通事業者へのヒヤリング調査においても、バス・タクシー事業者ともに、雇用状況は大変厳しい状況にあると推察される。

[交通事業者へのヒヤリング調査]

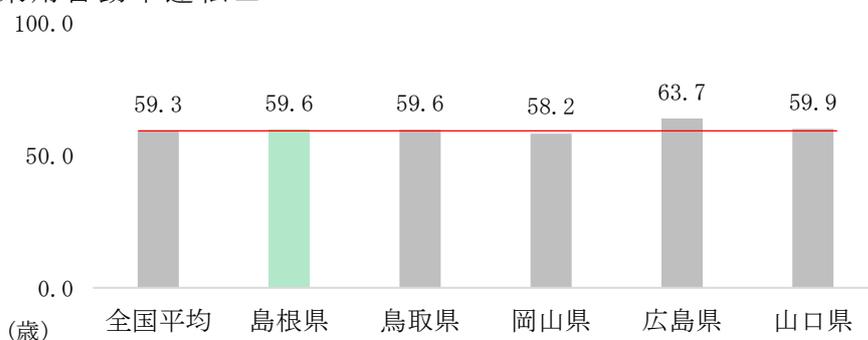
- ・「運転士不足は、長く続いている。」
- ・「募集しても応募がない状況あり、雇用は不安定な状況が続いている。」
- ・「運転士確保は、行政に協力してもらいながら、連携して実施したい。」

○運転士の平均年齢(2019年度)

・バス運転士



・乗用自動車運転士



資料：中国運輸局「中国地方における『自動車運送事業(バス・タクシー)の運転手不足対策』に関する調査について(2019年3月)」

○運転士の有効求人倍率(2019年1月)

	バス運転士	乗用自動車運転士
島根県	2.13	10.44
鳥取県	1.86	5.58
岡山県	4.29	5.21
広島県	2.34	5.29
山口県	2.53	4.82

資料：中国運輸局「中国地方における『自動車運送事業(バス・タクシー)の運転手不足対策』に関する調査について(2019年3月)」

また、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は、公共交通事業者にもでており、感染症対策など運転士の業務負担は増えている。

課 題

運転士不足への対応

バス・タクシー事業者ともに、運転士の高齢化に加え、運転士不足が進行しており、バス路線網や地域の移動手段に大きな影響があるため、本市における公共交通のネットワークやサービス水準を確保するには、これを支える運転士不足への対応が必要である。

また、運転士不足への対応は、事業者単独ではなく、行政や地域が共に解決すべき問題として取り組む必要がある。

益田市の公共交通の現状と課題⑤

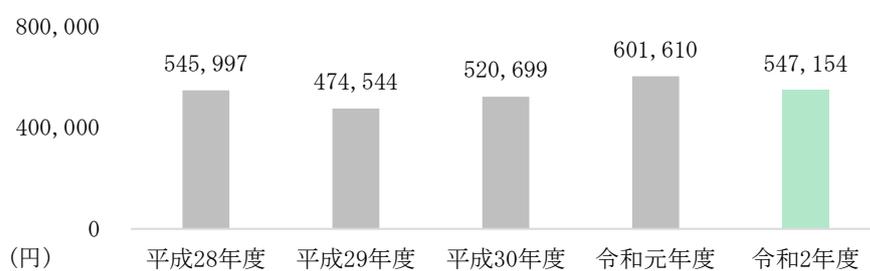
公共交通利用者の減少と行政の財政負担

現 状

公共交通の利用者は減少傾向が続いており、本市の行政負担は増額傾向にある。公共交通利用者の減少による交通事業者の経営環境の悪化等が続くと、持続可能な交通体系の確保・維持に伴う財政負担が増加すると推察される。

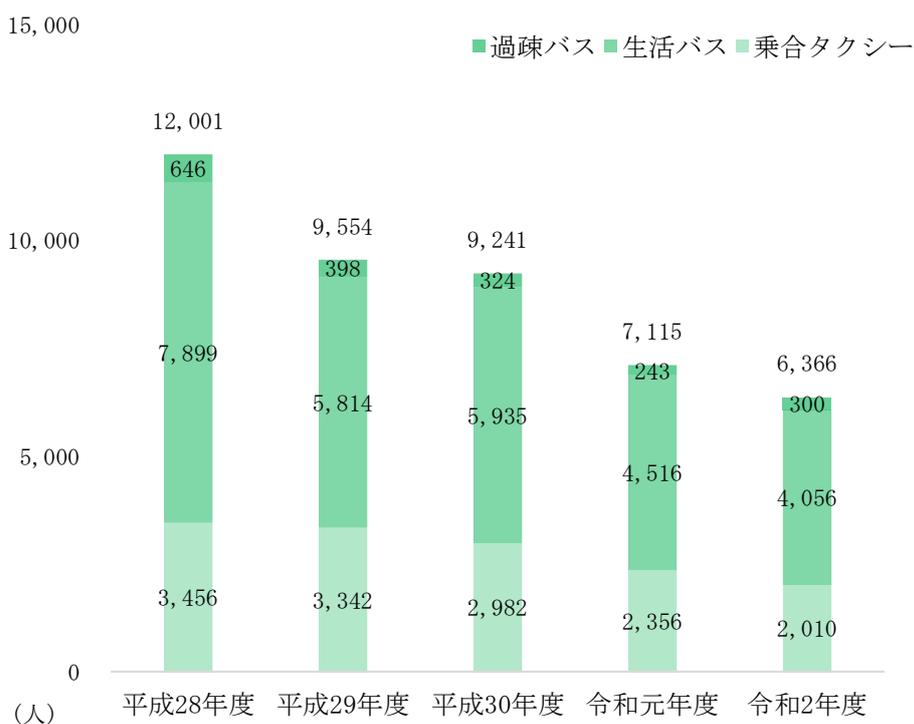
1. 利用者数

○路線バスの利用者数の推移



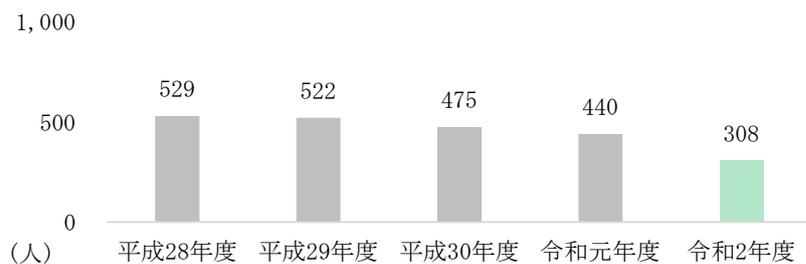
資料：益田市

○乗合タクシー・生活バス・過疎バスの利用者数の推移



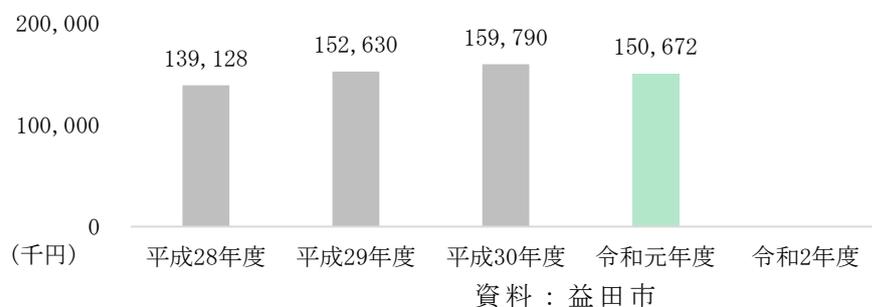
資料：益田市

○益田駅の1日平均乗車人員の推移

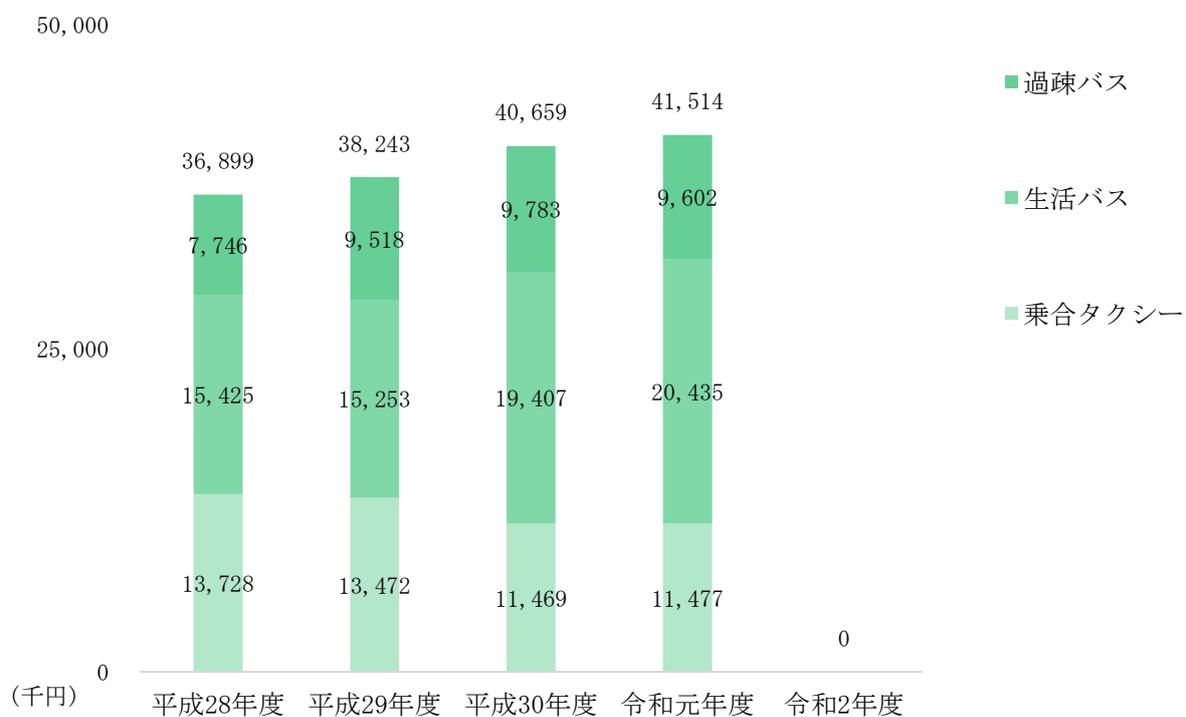


2. 市の負担額

○地方バス路線維持対策費補助金の推移



○乗合タクシー運行事業費・生活バス事業費・過疎バス事業費の推移



○路線バス(真砂線)の廃止と代替交通実証事業

令和2年9月30日をもって路線バスの真砂線が廃止となった。

本市は、交通空白地域となった真砂地区において、地区の実情等を考慮し、国道191号線を通る都茂線(路線バス)との乗り継ぎを確保して、生活交通体系を維持するために、予約型乗合タクシーの実証運行を令和2年10月1日から期間限定で実施してる。

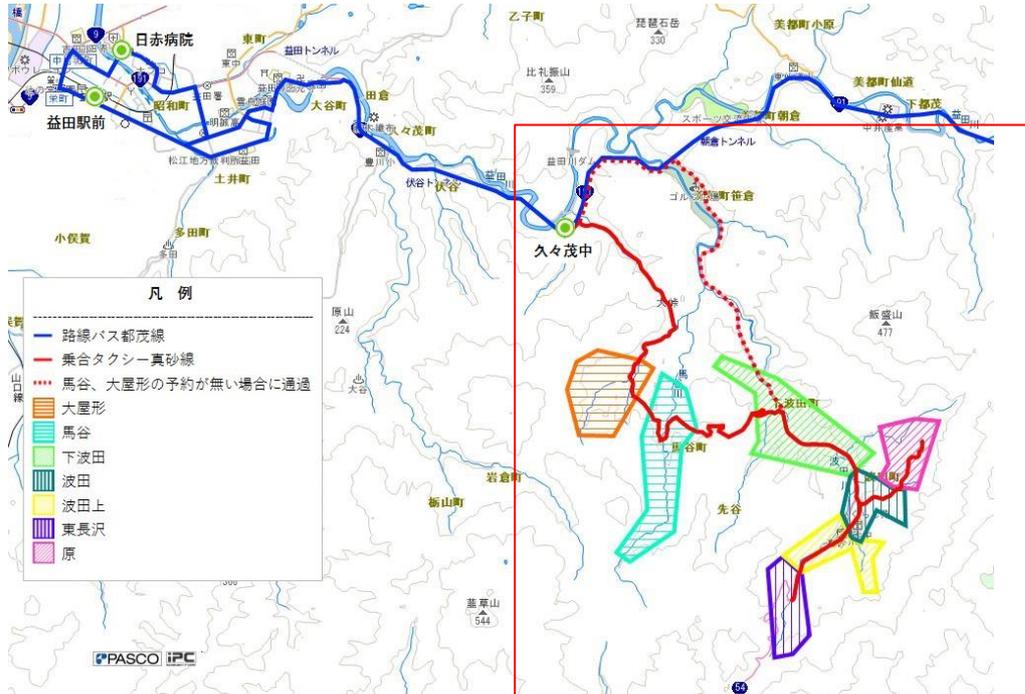
1. 事業の概要

項目	内容
運営主体	益田市
運行主体	市内タクシー事業者
運行方式	予約型乗合方式
運行形態	区域運行
利用方法	利用者は前日までに運行事業者へ直接予約をする。
運行エリア ・乗降場所	自宅または自宅付近から共通乗降場所まで ・真砂地区内：【運行エリア】の網掛区域 ・共通乗降場：久々茂中バス停(久々茂パーキング内)
実証期間	令和2年10月1日～令和4年3月31日
運行日	月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日 ※祝日運行 (12/31～1/3を除く)
運行便数	予約に応じて、1日最大3便(益田方面1便、真砂方面2便)
運賃	100～300円/回 ※小学生は半額。小学生未満は無料。身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は半額。

2. 運行エリア

真砂地区の4町内を7ブロックに分けて区域運行を行い、国道191号線を通る都茂線（路線バス）の「久々茂中バス停」と接続します。

- ・真砂地区内：長沢町、波田町、下波田町、馬谷町を7ブロックに分ける
- ・豊川地区内：久々茂中バス停（久々茂パーキング内）



◆曜日別利用者数（令和2年10月1日～令和3年3月31日）

月曜日から金曜日までの運行としているが、最も利用が多かったのは、金曜日の48人で、最も利用が少なかったのは、火曜日の25人となった。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	合計
利用者数	34人	25人	33人	41人	48人	181人

資料：益田市

課 題

利用者減少と効率的な運行への対応

財政負担は、持続可能な交通体系を維持していくための必要な経費であり、市民ニーズの変化に対応できる交通サービスを提供して利用者を確保するとともに、効率的な運行体系を構築する必要がある。

益田市の公共交通の現状と課題⑥

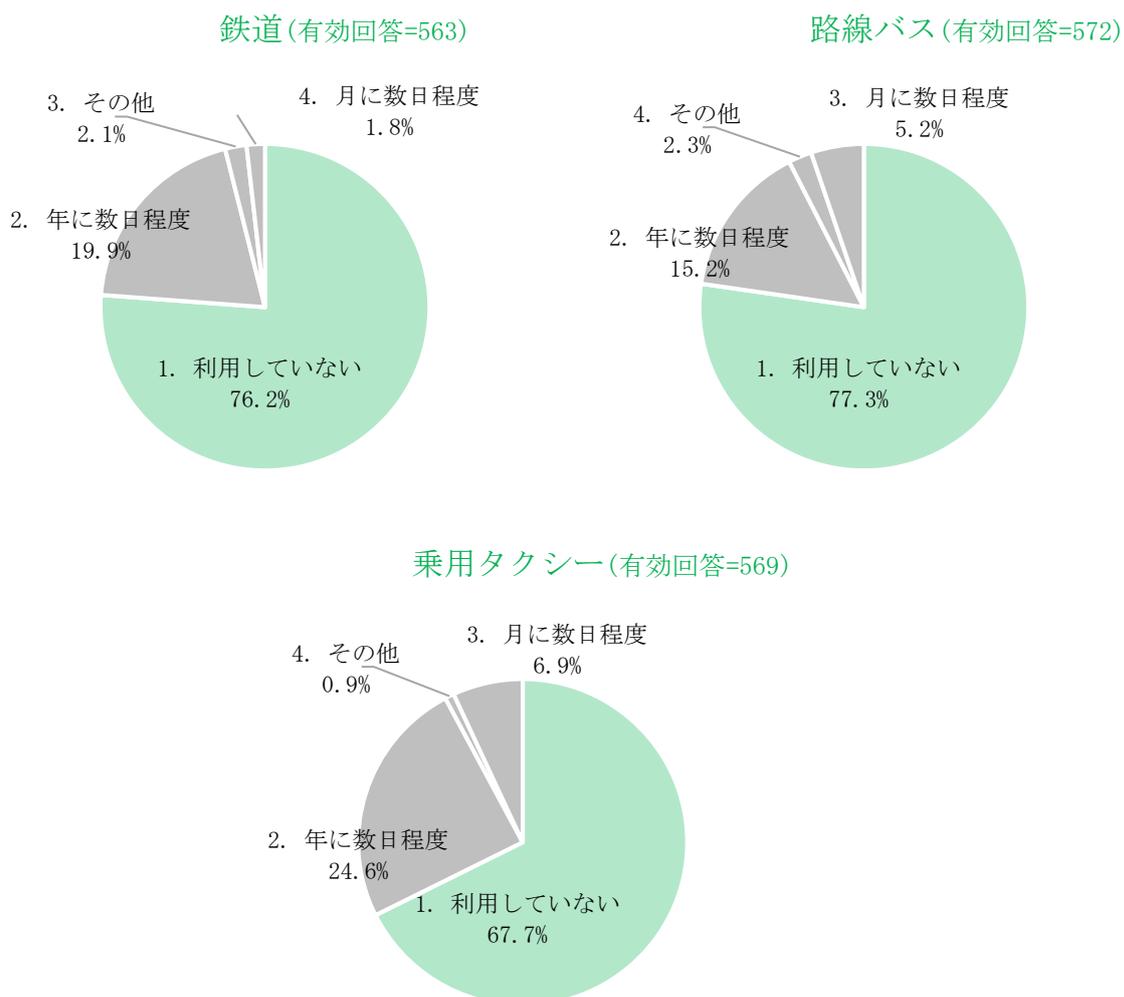
公共交通に関する市民意識の醸成

現 状

市民アンケート調査によると、公共交通を利用していない人の割合は、鉄道が76.2%、路線バスが77.3%、乗用タクシーが67.7%となっている。

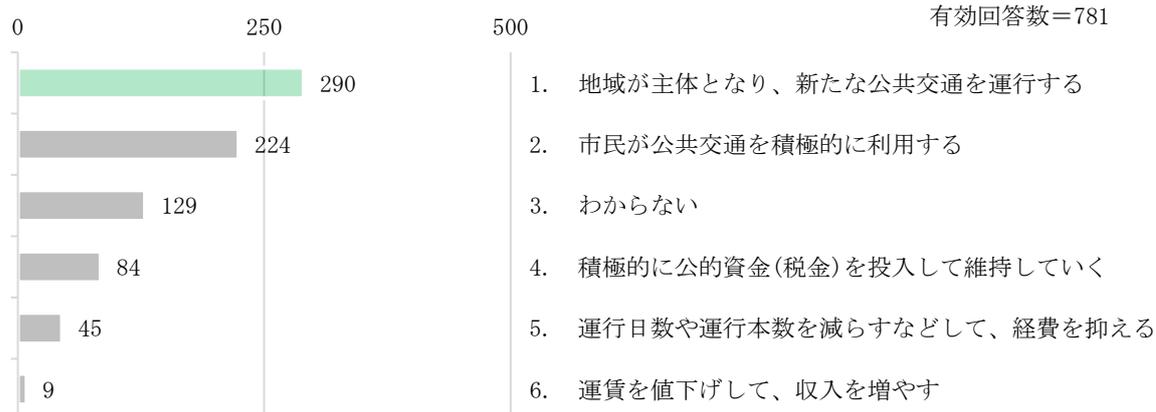
また、「これから公共交通を維持するために何が重要と考えますか？」の問いに対しては、「地域が主体となり、新たな公共交通を運行する」「市民が公共交通を積極的に利用する」という回答が上位にきており、将来的には公共交通が必要だと感じていても、現在は公共交通を利用していない人が多い。

○公共交通の利用状況



資料：益田市「市民アンケート(2021年2月実施)」

○これから公共交通を維持するために何が重要と考えますか？



資料：益田市「市民アンケート(2021年2月実施)」

○「バスの乗り方教室」の開催

平成29年度から令和元年度にかけて、地区や小学校にて開催した。



課 題

地域を含め、多様な主体との協働・連携した対応

地域公共交通は、交通事業者と行政のみで維持していくことは難しく、地域との協働による持続可能な仕組みづくりが求められる。

公共交通を積極的に利用してもらうためには、市民に地域公共交通に関する現状や課題などの情報を知ってもらい、「地域の公共交通を守り・育てる」という意識醸成を図り、実際に行動してもらうことが必要である。

また、安全安心で持続可能な仕組みづくりを構築するには、住民だけでなく、交通事業者と連携した取り組みが望ましい。